

(別添1)

作成	平成16年4月
改定	平成17年4月
改定	平成18年4月
改定	平成19年4月

小牧市地域水田農業ビジョン

小牧市地域水田農業推進協議会
小牧市農政推進協議会

(1) 地域水田農業の改革の基本的な方向

地域農業の特性

小牧市の農業は、温暖な気候、豊かな自然環境と大消費地である名古屋近郊という立地条件に恵まれ、稲作を中心に畜産、野菜、果樹の生産が盛んに行われていましたが、名神・東名高速道路及び中央自動車道などの開通に伴い、交通の要衝として、次第に、従来の田園都市から工業中心の都市へ変貌してきました。

この間、土地区画整理事業をはじめとした市街化整備等による都市化とともに、従来から農業が盛んに行われていた地域への工場、倉庫等の進出及び宅地開発の進展により、農用地の減少はもとより、農住混在化により営農条件の低下が続いています。

現在、水田は、市内の耕地の約半分を占め、米は本市の中心的な作物ですが、水田所有農家の約6割は水田面積20^ア以下の零細・飯米農家であるなど、兼業農家が大半を占めています。

また、オペレーターで組織された尾張中央農協小牧受託者部会は、高齢化してきており、後継者問題は、一般の農家ともども深刻になっています。

生産された米のうち、約5割が農協の乾燥調整施設を利用してありますが、その内、約4割が農家保有米として引取られ、残りの約6割（生産された米穀の約3割）が農協を通じて販売されています。

作物振興及び水田利用の将来的方向

気候、風土及び社会環境の関係から水田では水稻作以外の他作物の作付けは難しい状況にありますが、篠岡土地改良事業によるパイプラインの整備、平成16年11月竣工した大草地区の農業集落排水事業の完成、現在進行中の木津用水流域のパイプライン事業により、水田への生活雑排水の流入防止により、営農環境の向上を図っていきます。

また、平成12年9月の東海豪雨の教訓を生かし、水田の持つ多面的機能の一つである貯水能力を生かしていきます。

水稻作物に対しては、加工用米に力を入れ、さらに農村景観向上につながる景観形成作物の推進による水田利用の将来像を目指しています。

そうした中、水田経営面積10ha以上の法人の経営拡大及び4ha以上の個人の経営安定をめざすため、助成を実施し農業経営基盤強化を目指していく。

これらを基本として、加工用米、景観形成作物及び作業受託を行う農業生産法人が、草刈作業を行った保全管理水田（畦畔を除く）に対しても、助成していく。

担い手の明確化と育成の将来的方向

工場、倉庫等の進出及び宅地開発が進む農住混在の営農環境の中では、

新規のオペレーター確保が難しい状況にあります。現在活動しているオペレーターは能力の限界に近づいてきており、高齢化と相まって、加速的に利用集積が進む状況にはありません。

しかし、受託ほ場や利用集積箇所の見直しによる連坦化など、作業効率の向上が可能な地域から、利用集積を関係者に働きかけていきます。

また、オペレーターの活力が弱まっている中、小規模ではありますが営農能力に余力がある農家に対し、現在耕作している周辺ほ場への経営拡大の働きかけを行い、規模の拡大による経営環境の向上を図る一方、現在、個々の農家もつ農地管理能力の保持を図りつつ、新たな営農体制の確立に向け、努力していきます。

農業生産法人の農業経営体制の整備及び機能強化するため、農業生産法人の作業受託の保全管理水田に対し助成し、農業生産法人の育成を進めていく。

担い手像としては、水稻作主体の認定農業者及び4 ha 以上の水田農業経営を行う個人と、10 ha 以上の水田経営面積をもつ農業生産法人を基本とします。

また、その育成方針として「米づくりのあるべき姿」の目標年度である平成22年度までに、市内の米生産の5割以上の生産を担い手及び新たな営農体制により担うことを目標とします。

(2) 具体的な目標

作物作付け及びその販売の目標

「売れる米づくり」への取り組みについては、作付品種が「あいちのかおり」、「あさひの夢」に集約されてきており、大口化への取り組みを今後も続けます。

作物の「地産地消」への取り組みについては、「農協直売所での販売」の促進をはかります。

作付計画、販売計画については、別表のとおりです。

(3) 地域水田農業ビジョン実現のための手段

産地づくり推進交付金（産地づくり対策）の活用方法

ア 加工用米への助成 500円/俵

（但し、10俵以上の出荷者に限る。）

イ 景観形成作物（れんげ、菜の花、コスモス）

10,000円/10アール

ウ 水田経営面積が10ha以上の農業生産法人への奨励金

50,000円

エ 水田経営面積が4ha以上の個人への奨励金

50,000円

オ 作業受託を行うビジョンに位置付けた農業生産法人への助成

3,000円/10a（上限300,000円）

(4) 担い手の明確化

《リストは省略》

(別表)

(2) 具体的な目標
作付作物及びその販売の目標
(1) 作付計画

(単位：ha)

作物名等 品種名	現在の状況	平成 18 年	平成 20 年	平成 22 年
水 稲 (加工用米)	530 (13)	530 (6)	510 (6)	500 (6)
あいちのかおり	302	318	321	330
あさひの夢	201	185	163	145
その他品種 (もち米) (コシヒカリ) (葵の風) (ハツシモ) (祭り晴)	27	27	26	25

注) 水稻は、農家保有米等の生産面積も含めた面積。

(2) 販売計画

(単位：t)

作物名等 (品種名)	現在の状況	平成 18 年	平成 20 年	平成 22 年
水 稲	722	722	707	692
あいちのかおり	440	462	458	450
あさひの夢	264	242	234	230
その他品種	18	18	15	12

注) 水稻は、農協の米販売計画数量。